

# 三笠提督とブラック鎮 守府

naota

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

佐世保に着任することになった三笠、彼の本当の姿を目にすることで艦娘たちは変わっていく

# 目次

佐世保に着任

1

面談（駆逐艦）

10



# 佐世保に着任

初投稿です。色々誤字脱字とかキヤラ崩壊とかありますので暖かい目で読んでください

倉田元帥 「三笠くんには佐世保にいつてもらう。」

三笠 「了解しました。」

倉田 「大淀、少し三笠くんと話をしたいのだが

席を外して貰えるか？」

大淀 「はい、では失礼します」ガチャバタン

倉田 「いやあーすまないな三笠」

三笠 「いえいえ、しかしあそこは噂によると相当な

ブラック鎮守府だったそうですね」

倉田 「ああ、てか前も言ったじやん、2人のときは

敬語なして」

三笠 「あつ、そうだったな」

倉田「で、だ。あそこの艦娘は何をしでかすか

分からないからな、あそこに俺のとこの  
ビスマルクを異動させることにした。

もちろんお前の護衛でな」

三笠「どーも、てか俺に護衛要らんだろ。」

倉田のとこのビスマルクよりは強いぞ」

倉田「ああ、それは知っているが、一応極秘なのだ

お前のことは。まあ、覚えているのも俺くらいだ

まあ、アイツらが従わないなら見せるくらいなの

感じで頼む。まあ、従わないとおもうが」

三笠「久々に暴れてーよ。明日だろ？」

倉田の事だからビス子にも言つてあるんだろ？」

倉田「お見通しか、そうだ、明日朝に佐世保に出発

してもらおう。」

三笠「ビス子には先に教えてもいいのか？」

倉田「ああ、構わない。明日寝坊すんなよな！」

三笠「分かつてら、じゃーな！」ガチャバタン

大淀 「ほんとに仲良いですね、提督。」

倉田 「大淀」

大淀 「はい」

倉田 「明日の奴の出発の時に佐世保の資料をやつに

渡してくれ」

大淀 「了解しました」

倉田 (やつなら立て直すことができるだろうな)

ビス 「Guten Morgen 三笠提督」

三笠 「ふあー、おはよ」

大淀 「三笠さん！提督からこれをとの事でした

佐世保の資料です！」

三笠 「おお、ありがとう。気が利くねえー、あいつも」

ビス 「時間ですね、高速艇に乗りましょ」

三笠 「おう、じゃな大淀、資料ありがとー」

三笠 「なあビスマルク、もし俺が佐世保のヤツらに襲われても絶対に手出すなよ」

ビス「え？私は提督にあなたを護衛せよと……」

三笠「ああ、でもいまは俺の艦娘だ。」

指示には従ってもらおう」

ビス「そんな！あなたは人間です！彼女らに

襲われたら一溜りも……」

三笠「ああ、その事だがお前には教えておこう

俺はな——」

ビス「まさか貴方がそのようなお方だとは……」

三笠「あつはつはつ、まあ仕方ないさ倉田以外

見たこともないのだから」

ビス「そうでしたか、……あつもうすぐです」

三笠「おお、そうか、にしてもでつけーな！」

ビス「当たり前ですよ、日本を守るための基地

ですから！着きました！おりますよっ！」

三笠「へいへい、出迎えは……いないな」

ビス「気をつけましょう、物凄い視線と殺気を



感じます」

三笠（頼むから誰も俺に手を出させるなよ

あの力は使いたくないからな）

「すいませーん!!!」

ピ三「??」

??? 「貴方が今日からここに着任する三笠隼殿で

ありますか？」

三笠「そうだ。君は？」

??? 「戦艦長門だ。貴方が来るまでの提督の代わり

をしていた者だ」

三笠「これはこれは、ビックセブンの長門さんか」

長門「ああ、そうも呼ばれているな

でだ、私は大丈夫なのだが前の奴のトラウマが

残っている子がいるのだ特に駆逐艦と軽巡」

三笠「あの野郎、ちなみにどのくらい精神に来てる？」

長門「駆逐の子は人間を見ると泣くか吐く

軽巡の子らは人間を憎んでいる襲いかかって

来るやつもいるかもしれん。私が護衛しよう」

三笠「ああ、頼む。ところでここで一番強い艦娘は

誰だ？」

長門「へ？えつと、空母なら加賀、戦艦なら伊勢、重巡なら古鷹、軽巡なら川内、駆逐なら時雨だ」

三笠「そうか…」

長門「何をするつもりだ？」

三笠「いや、とりあえず執務室まで案内してくれ」

長門「了解した。」

長門「ここだ。陸奥、入るぞ」ガチャ

陸奥「はい、……………ん？そこのお方は？」

三笠「本日から佐世保鎮守府に着任する三笠隼だ

よろしく頼む」

陸奥「長門型戦艦二番艦の陸奥です。よろしくね」

ビス「私はドイツ戦艦ビスマルクよ」

陸奥「よろしくね」

三笠「早速だがこのみんなに話したいことがある

1度みんなを集めてくれないか？」

長門「了解した」

三笠「みんな集まってくれてありがとう

私は今日から佐世保に着任した三笠隼だ。

早速だが君たち1人1人に面談をする。

もちろん長門たちが同伴だ。

1つ言っておこう。私は君たちの味方だ。

だが、もし前の奴が憎い、人間が憎いと 言うやつは俺に殴り掛かるなり殺してくれても構わない、私は君たちに 手は出さない、私の命に

誓おう。

まず1番最初は長門と陸奥だ、そこから

駆逐、軽巡、重巡、戦艦、空母といく

招集がかかれば来るように、

では解散！」

ガヤガヤ

長門 「なんて無茶なことを言うんだ！」

貴方は人間なんだぞ！」

三笠 「ふーん、提督が“人間”で無ければいけない

なんて誰が決めたんだ？」

長門 「え？ どういうことだ？」

三笠 「まっ、誰かに俺が襲われた時に分かるさ

それとも今見せる？」

長門 「っ!! …… いや、結構だ、で、私たちの面談は？」

三笠 「そうだな、前の奴はどんなやつだった？」

どんなことをされた？」

長門 「私達は特に、1回セクハラをされそうになつて

やつの腕をおったからな」

三笠 「え？ お前ゴリラか？」

長門 「ゴリラではない！」

三笠 「はっはっは、冗談だよ、陸奥は？」

陸奥 「いえくにもされませんでしたよお」ニツコリ

三笠「……………そうか。ではこれで君たちの面談は終わりだ

次に呼ぶのは……第7駆逐隊の4人だ

彼女らが1番性的暴行を受けていたようだな」

長門「ああ、1人気をつけてくれ、曙という子だ

その子が1番性的暴行を受けていた、

相当奴を恨んでいる」

三笠「おっけー、駆逐なんかじゃ負けねーよ」

長門「提督、殺されるぞ」

三笠「大丈夫だ、見ててくれ」

---

次回 面談（駆逐艦編）です

## 面談（駆逐艦）

艦娘 s i d e

『第7駆逐隊、漣、隴、曙、潮、執務室に集合せよ』

漣「え、最初ワタシたち？」

隴「みたいだねえ、2人呼んでくる」

↳1分後↳

隴「ほらっ！行くよ2人とも！」

潮・曙「……………」

↳数分後↳

提督 s i d e

コンコン『第7駆逐隊漣、隴、曙、潮入りまーす』

陸「はいつて〜」ガチャ

三「時間を取らせてすまない4人とも。では面談を始める」

長「これが彼女らの資料だ」

三「ん、ありがとう」

三「4人とも前のあのクズにあれこれされてたみたいだが、なんで漣と臙はケロツとしてるんだ？」

漣「えーつとですね、ご主人様。私と臙は特に何もされなかつたんです。

ボノたんと潮が酷かつたんです。」

三「だから、本人達は静かなのか。潮は元から控えめと聞いていたが曙は

……」

潮「……………」

曙「……………」

三「結構酷かつたみたいだな」

(ちよつと試してみよ)

長「お前なにかする気か？」

三「ああ」

三「特二型駆逐艦曙、前任のクズ野郎に散々やられたようだな。辛かつたら

う。でももう安心だぞ」

曙「どうせすぐ裏切るくせに」

三「裏切る？んなわけあるか！俺はな！お前らみたいな俺より弱いやつを痛

めつけて快感を覚えるようなグズじゃねえ！」

曙「……………ッ！ 弱い……………だと……………？

ひ弱な人間のくせに！私が弱い？どこがよ！」

三「ああ！弱いよ！お前は！『人間』の俺よりもな！」

曙「ああ、そう、ならこうするまで！」

三「こいよ！ゴラア！」

バシイイイイイイイイイイイイン！

長「おつ、おい！」

三「この程度か？ああ？」

曙「チツくそがア！」

三「おつと、ここからは演習場でやるぞ、さすがに着任そうそう執務室ボコボコは気分が悪い」

曙「は？そんなこと聞くわけ……………ッ！」

三「はいはい、行くぞ、お前らも来てくれ、目に焼き付けろ、俺はクズ共と

は違う」

～演習場～

三「せっかくだから、みんな呼んでくれ」

長「了解した」



艦娘 side

『至急、演習場に全員集合せよ！繰り返す！全員演習場に集合せよ』  
「なにになに、なんかあるの〜?」

提督 side

三「サンキユ、長門。さてみんな集まったところで再開するか。」

曙「艦装をつけろって、あんた正気？殺されたいの?」

三「はん！やれるもんならやってみな！」

みんな集まってくれてありがとう。今から俺と曙の決

闘を始める！艦装展開！」

曙「……………は？えつ、へつ？何それ、は？人間が艦装展開して水に浮

いてる……………」

三「おい、どうした？かかってこいよ怖えのか?」

曙「……………ツ！やってやる！あんたがなんだろうと！」

三・曙「ウオオオオオオ!!!」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

曙「きやあああ！」

三「まあ。こんなもんか」

曙「強い……大破判定……か……バシャツ」

三「おつ、おい！大丈夫か！」

長「提督の勝ちだ。あなたはなんなんだ？」

三「俺か、俺は君ら艦娘がうまれる前、男で対抗できるものは無いかと100人が志願して実験した。俺以外に3人が、艦娘と同じようになった。それ以外はみんな死んだ。敷島型戦艦……聞いたことはあるだろう。前弩級戦艦、敷島型3番艦……2代目連合艦隊旗艦、三笠！今着任した！今からお前たちの指揮を執る！今後、俺とやり合いたいなら演習場に俺を呼べここの設備を壊したやつは独房2日だ！」

長「まさかあなたが……三笠様だったのですか。」

三「今更かしこまられても気持ち悪い、前のままでいい。それで曙は大丈夫なのか？久々の腕試しで力加減するのを失念していたが……」

漣「一応大丈夫なようです。今隴が高速修復材で風呂に入れていて、もう来るかと、ご主人様」

三「よかった。次からは手加減をしなればな」

漣「1発しか打ってないのに、しかも副砲をそれでワンパンですかい……ポノたんも練度は高いのに……でもいいもの見ました！k t k r」

隴「提督、連れてきましたよ」

三「大丈夫か、曙。すまん手加減を忘れていた。駆逐艦にはいささか耐えれ  
まい。」

曙「あつ！あの！クソ提督、さつきはごめんなさい

人間の癖につて偉そうに……」

三「ああ、いいんだ、そもそも俺が人間だつたらお前にひとひねりにされて  
るわ」

曙「でつても！上官にそむいた……解t……」

三「解体？するわけねえだろ！馬鹿かお前は！部下を失うのがどれだけつら  
いか……曙、君は上官にそむいた、だが、俺も君を痛めつけ恥をかかせてしまつたこ  
れでおあいこだ。」

曙「……はい……。うっうう……ッ！」

三「よしよし、よく頑張つたな」ナデナデ

曙「ううう：つらかつたよお……」

三「もう少し胸貸してやるから泣くだけなけ」

曙「うわああああああああああああああん」

く小一時間後く

三「寝たか……あれだけ泣いたら疲れるか……」ポンポン  
長「まあ、あれだけ酷いことに耐えてきて、やっと頼れるやつが来てほっとしてるんじゃないか？」

陸「そうねえ、こんな泣いたこの子見たこと無かったもの」

三「後で4人ともに間宮券やるわ」

潮「あつ、あの。信用してもよろしいのでしようか」

三「ん？何を？」

潮「あなたを。提督を。裏切らないですか？」

三「もちろんだ。俺の命に誓う」

潮「分かりました。でも、何かしたら容赦しませんからね？」ニコツ

三「アツハイ」

潮「では失礼します。起きたら曙ちゃん連れてきてください。」ガチャバタン

三「なんか。凄いプレッシャーかけられたな」

長「ハイライトが仕事放棄してましたね」

曙「………ん………ふあああ」ゴシゴシ

三「あつ、起きたか。ほれ、間宮券4人分」

曙「／／／／／／／／　　ごっつ、ごめんさい！寝ちやった………ありがとう、

ありがたく頂くわ」

三「別にいいよー辛かったらいつでも泣きに来ても。憲兵さんにお世話にならない程度に」

曙「／／／／／／！こっ、この……………クソ提督!!!」バシイン!!!

三「ぶべらっ！」

長「おいおい、あんまりからかってやるな。プライドが傷つく」

三「きつ、肝に銘じておきます……………」

曙「……………たまに来るかも……………」

三「ん？なんか言ったか？」

曙「なっ、何も言っていないわよー！じゃあ、失礼します。」ヤツタ!!!マミヤサン

イコーアツコラサザナミ!!

三「よかった。一応第7駆逐隊は終了か。駆逐艦は他にいるのか？」

長「いや、それが……………みんな艀装を下ろしてしまつてな。あの4人だけ

だ。」

三「マジか、あいつに頼んで何人か寄越してもらおうわ」

長「??」

三「あ、気にするな。今日はもう遅い。上がってくれ」

長・陸 「わかりました、では」ガチャバタン

三 「とりあえず、1つ目はクリアだな。さてもう寝よう……………」